

理科実験の事故防止について

1 予備的観察・実験について

- (1) はじめて行う観察・実験についてはもちろん、経験のある内容についても児童の立場に立って慎重に行う必要がある。
- (2) 薬品、器具、エネルギー源（熱、光、電気など）操作等について正しく知識をもつとともに、技能向上をはかることが大切である。
- (3) 学習の場についても、周囲の状況を十分把握し、できるだけ広く、のびのびと活動できるような配慮のもとに、正しいデータが得られるよう準備していくことが事故防止にも役立つ。

2 野外学習について

- (1) 場所、時季、時間などについて綿密な計画を立て、往復途上及び現地周辺の危険な条件を確認（下見）し、予防対策を立てておく。
- (2) 野外では、目的外の行動をとりがちなので、事前指導を十分行い、一人ひとりにはっきりした視点をもたせ、活動することが大切である。

3 理科室、準備室について

- (1) 施錠を完全にし、児童の自由な出入りをさせない。
- (2) 薬品、器具の管理を確実にし、廃液等適切に処置する。

事故発生時の対応と処置

事故が発生した場合は、すみやかに応急処置をした後、状況によっては医師の手当てを受けさせなければならない。また、同時に、他の児童への被害が広がらないように配慮し、適当な措置を講じる必要がある。保護者、学校長（教頭）、委員会等への連絡は原則として、次のように行う。

